

皆様おはようございます。

夏の休みの時を迎えております。一年前と比べても、いろいろなことがありました。世界ではコロナの相変わらずの猛威がありました。戦争があり、半導体不足があり、燃料エネルギーの高騰と共に物価高が起きました。先行きの不透明感が増し加わっています。

今日はルカによる福音書の8章が開かれております。

今も混乱と困難の時期ですが、イエス様の時代にも混迷を極めるものがありました。

40 イエスが帰ってこられると、群衆は喜び迎えた。みんながイエスを待ちうけていたのである。

マタイ 9:36 に、「また群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれました。」とありますが、人々は今も昔も、実にいろいろな悩みごとのゆえに疲れ果てています。そして助けを求めています。そこに時に羊の衣をかぶったオオカミのような存在が待ち構え、人を骨までむさぼりつくすような危機があります。

41 するとそこに、ヤイロという名の人がきた。この人は会堂司であった。イエスの足もとにひれ伏して、自分の家においでくださるようと、しきりに願った。

42 彼に十二歳ばかりになるひとり娘があったが、死にかけていた。ところが、イエスが出て行かれる途中、群衆が押し迫ってきた。

ヤイロという人がいました。彼は会堂のリーダーでした。立派な人で、尊敬を集めていたに違いありません。しかし彼にもまた悩みがありました。大切な可愛い一人娘が病気だったのです。しかもその病状は実に深刻で、その残された命は風前の灯火でした。娘は死にかけていました。

ヤイロはイエス様を信じ、飛び出して行ってイエス様の足元にひれ伏して、自分の家においでください、可愛い一人娘を癒してくださいと願いました。そしてイエス様は彼の家に向かって歩み始めて下さったのです。ところが、イエス様が向かう途中には、群衆が取り囲み、押し迫り、殺到して、イエス様は時々立ち止まられ、一向に前に進みません。娘の命はもうあとわずかなのに、もしものことがあったらどうしよう。手遅れになってしまったら…。ヤイロは気が気ではなくて仕方がありません。どうして私の邪魔をするのか、こちらには今にも死にそうな娘がいるというのに、どうして私の娘のことを考えて、後にしてくれないのか。どうしてみんなは自分の事ばかり考えて、すぐにでも死にそうなわが娘のことを考えてはくれないのか。私がみんなのためにこれまでどれくらい尽くしてきたか、みんなは知らないのだろうか…。45節には取り囲んで、ひしめき合っていますということがありますが、圧倒圧迫し、押し寄せ、群がり、殺到し、押し寄せ、不快なほどに接近し、せつつく、うるさくせがむ、干渉する、考え、思いなどが、頭や心に次々と思い浮かび、去来するという意

味もある言葉です。そのように私たちの心には、せつない、つらい、胸を引き裂かれるような出来事が、振り払っても振り払っても後についてやってくる、そういう事があるのではないのでしょうか。

ヤイロはイエス様にあって助けられ、喜びあふれて去っていく人たちを見て、良かったねと思いつつも、心の中では、早く、一刻も早く、愛する娘のために一秒でも早くイエス様にお越しいただきたいという気持ちだったのではないのでしょうか。

43 ここに、十二年間も長血をわずらっていて、医者のために自分の身代をみな使い果してしまっただけで、だれにもなおしてもらえなかった女がいた。

44 この女がうしろから近寄ってみ衣のふさにさわったところ、その長血がたちまち止まってしまった。

45 イエスは言われた、「わたしにさわったのは、だれか」。人々はみな自分ではないと言ったので、ペテロが「先生、群衆があなたを取り囲んで、ひしめき合っているのです」と答えた。

46 しかしイエスは言われた、「だれかがわたしにさわった。力がわたしから出て行ったのを感じたのだ」。

そんな中、ただでさえ進みが遅いのに、またもや思いつめた一人の女性の現われによって、またもの大きな番狂わせが起こりました。この女性もまた、病に苦しむ人でした。ヤイロの娘の幸せだった12年はあつという間であったかもしれませんが、この女性の12年は、50年にも60年にも無限にも思われる、つらい地獄の日々でした。一切の持ち物を投げうって医師の治療を受けましたが、治らないばかりか、他の福音書を読みますと、その病気はさらに悪くなっていました。女性病で、出血の止まらない病でした。常に貧血に苦しみ、生気なく、吐き気と頭痛、食欲不振に悩まされ、臥せって過ごしていましたが、イエス様のことを風のうわさで聞き、この方のお衣のはしにでも触れさせて頂けたら、きっと治ると信じて重い体を引きずるようにしてイエス様の所に来て、後ろから近づき、お衣の房に触ったのでした。その彼女の治りたい一心の心、何によっても解決されなかった、持ち物もすべて失った、その行きつく先がイエス様でした。そして彼女がイエス様のお衣の房に触った時に、電流が流れるように力が注ぎこみ、彼女の長年の病がたちどころに癒されたのです。その時にイエス様もまたただならぬ力の求めと祈りを感じ、そこに立ち止まってあたりを見渡し、誰が私に触ったのですかと尋ね始めたのです。ヤイロの気持ちはどうであったのでしょうか。それを見てか、ペテロは言いました。

「先生、群衆があなたを取り囲んで、ひしめき合っているのです」と答えた。

46 しかしイエスは言われた、「だれかがわたしにさわった。力がわたしから出て行ったのを感じたのだ」。

47 女は隠しきれないのを知って、震えながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわった訳と、さわるとたちまちなおったこととを、みんなの前で話した。

48 そこでイエスが女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」。

始めは自分の癒しだけを望んで、隠れてイエス様のお衣に触れ、目的を果たせば他の人たち同様良かった良かったで終わるものとはばかり考えていた女性でしたが、どうして自分ばかりがこのように脚光を浴びることになったのか全く分からず、イエス様が自分を探される理由も分からずに、恐怖の中、息をひそめていましたが、あまりにイエス様が諦めずに探しておられるのを見て、女性はずいに震えながら進み出ました。そしてイエス様に触れたわけと、触るとたちまち治ったことをみんなの前で話しました。

キリスト教は、神様に自分の願い事を聞いて頂く為だけのものではなくて、神様を手段とするのではなくて、神様との人格的な関係を結ばせていただく者であると思います。結婚式をしてみんなにこの二人の関係を伝えて、喜び、祝福の中を歩き始めるように、イエス様は、私たちが困った時だけの関係ではなくて、困った時も、喜ばしい時も、いつも共に顔とかとを合わせて、二人三脚で進む関係を望んでおられます。そして、私たちがこのイエス様と共に進むにあたっての喜びや、感謝や、起こった不思議な出来事を、自分一人のものにしておくのではなくて、周りの方々に知らせることをイエス様は願っておられるのではないのでしょうか。

「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」。

あの人は長らく病んでいた人ではないか。どんな罪があつてずっとあのように苦しんでいるかと思えば、恵みを頂いてあんなに喜んでいる。イエス様からその信仰を称賛されている。あの人の所に行って話をしたい。こんな思いが周りに起こったことでしょう。イエス様はそのようなことも意図してくださいました。人の輪の中にこの女性を返してくださいました。

49 イエスがまだ話しておられるうちに、会堂司の家から人がきて、「お嬢さんはなくなりました。この上、先生を煩わすには及びません」と言った。

ヤイロは肩を落としました。その場に崩れ落ちたでしょう。「この上、先生を煩わすには及びません」との無情な言葉が響き渡りました。

ダメだった。間に合わなかった…。

しかしイエス様はおっしゃいました。

50 しかしイエスはこれを聞いて会堂司にむかって言われた、「恐れることはない。ただ信じ

なさい。娘は助かるのだ」。

あたかもこの時を予測しておられたように。イエス様は驚くこともなくこう語られました。ナインのやもめの一人息子の生き返り(ルカ7章)。ラザロの生き返り(ヨハネ11章)。

51 それから家にはいられるとき、ペテロ、ヨハネ、ヤコブおよびその子の父母のほかは、だれも一緒にはいって来ることをお許しにならなかった。

52 人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。イエスは言われた、「泣くな、娘は死んだのではない。眠っているだけである」。

53 人々は娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。

「泣くな、娘は死んだのではない。眠っているだけである」

人々はあざ笑いましたが、イエス様の十字架の死と復活により、私たちの死ぬべは定めは、復活と永遠のいのちに置き換えられたことを私たちは知っています。

私たちの死は、あたかも眠りのように自然なもので、目を覚ませば天の都にいるのです。

54 イエスは娘の手を取って、呼びかけて言われた、「娘よ、起きなさい」。

55 するとその霊がもどってきて、娘は即座に立ち上がった。イエスは何か食べ物を与えるように、さしずをされた。

56 両親は驚いてしまった。イエスはこの出来事をだれにも話さないようにと、彼らに命じられた。

「娘よ、起きなさい」

するとその霊がもどってきて、娘は即座に立ち上がった。

私たちがまた、死から復活して、即座に立ち上がるのです。

私たちが死がそのようなものであるとしたら、私たちが死に対してそのような勝利を得ているのなら、私たちが耐えられない苦しみがあるでしょうか。

「先生を煩わすには及びません」との言葉がありました。

主は私たちのあらゆるわずらいを引き受けるために来てくださいましたことに感謝いたしましょう。

主の豊かなお守りと祝福に感謝して、共に祈りましょう。

1 ペテロ 2:21 あなたがたは、実に、そうするようにと召されたのである。キリストも、あ

あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。

2:22 キリストは罪を犯さず、その口には偽りがなかった。

2:23 ののしられても、ののしりかえさず、苦しめられても、おびやかすことをせず、正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。

2:24 さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである。

2:25 あなたがたは、羊のようにさ迷っていたが、今は、たましいの牧者であり監督であるかたのもとに、たち帰ったのである。

マタイ 8:13 それからイエスは百卒長に「行け、あなたの信じたとおりになるように」と言われた。すると、ちょうどその時に、僕はいやされた。

8:14 それから、イエスはペテロの家には行って行かれ、そのしゅうとめが熱病で、床にっいているのをごらんになった。

8:15 そこで、その手にさわられると、熱が引いた。そして女は起きあがってイエスをもてなした。

8:16 夕暮になると、人々は悪霊につかれた者を大ぜい、みもとに連れてきたので、イエスはみ言葉をもって霊どもを追い出し、病人をことごとくおいやしになった。

8:17 これは、預言者イザヤによって「彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた」と言われた言葉が成就するためである。

イザヤ 53:1 だれがわれわれの聞いたことを／信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか。

53:2 彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

53:8 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、彼はわが民のとがのために打たれて、生けるものの地から断たれたのだと。

53:9 彼は暴虐を行わず、その口には偽りがなかったけれども、その墓は悪しき者と共に設けられ、その塚は悪をなす者と共にあった。

53:10 しかも彼を砕くことは主のみ旨であり、主は彼を悩まされた。彼が自分を、とがの供え物となすとき、その子孫を見ることができ、その命をながくすることができる。かつ主のみ旨が彼の手によって栄える。

53:11 彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。義なるわがしもべはその知識によって、多くの人を義とし、また彼らの不義を負う。

53:12 それゆえ、わたしは彼に大なる者と共に／物を分かち取らせる。彼は強い者と共に獲物を分かち取る。これは彼が死にいたるまで、自分の魂をそそぎだし、とがある者と共に数えられたからである。しかも彼は多くの人々の罪を負い、とがある者のためにとりなしをした。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。私たちのために、身代わりとなって、罪も患いも病も、痛みも悩みも、すべて担って十字架につき、贖いをなして三日目に死者の中から復活なさいましたイエス様に賛美と感謝とをおささげいたします。あなたの救いのおかげで、恐れることなく、救いを得、死より即座に立ち上がることが出来ます。どうか私たちから恐れを取り除き、信じ続けることが出来るようにお導き下さい。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン